

動きを測り ビジネスに モーションキャプチャー技術

本紙などが後援する「江戸・TOKYO 〇 技とテクノの融合展2016」が十二日、開かれる。中小企業ながら最先端の技術を持つ企業が多数出展する。その一つである、二〇一五年四月に創業したばかりのオペティトラック・ジャパン(東京都渋谷区)を訪ねた。社員八人の小所帯ながら「動きを測ることを、さまざまなビジネスにつなげようと挑戦している。」
(伊藤弘喜)

「技とテクノ展」参加

ゴーグル型端末を着けた男性が滑らかにバスケットボールをドリブルし、別の女性にパスを渡す様子。VR技術を用いたトレーニングの様子が写っている。



実際のバスケットボールの位置が正確に再現されていることを実演する男性―東京都渋谷区で

相手が、正確に再現されているからこそ、できる技だ。背後にあるのは動きを測ってデータ化する「モーションキャプチャー」という技術。オプ社は、この技術を実用化するソフトウェアづくりに取り組んでいる。人やモノなど動きを測りたい対象に反射塗料を塗ったマーカーを付け、複数の専用カメラでマーカーの動きを追う。縦軸、横軸、奥行きを三次元で最小〇・〇五ミリの誤差で動きを記録できる。

動きのデータは幅広い分野に使われている。医療や介護の分野では、まひした腕がどれだけ曲がるようになったかなど回復度を数値で正確に記

スポーツ、医療分野など応用

録して効果的なりハビリを探索する研究に使われている。スポーツでは好調時の打球フォームに比べ、いまのフォームがどう違うのかを客観的に把握できる。ロボットやドローンに正確な動作をさせたい時も、基になる動きのデータが必要で、モーションキャプチャーの出番となる。広報担当の森田優子さん(三三)は「いろいろな分野に活用できる可能性がある。動きを測ることが当たり前の中を指した」と意気込んでいる。

270社出展 12日開催

「江戸・TOKYO 技とテクノの融合展2016」は中小企業二百七十社が出展し、十二日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催。午前十時〜午後五時。入場無料。